

# 福島県における多面的機能支払交付金活動の特徴

福島県農業総合センター 企画経営部 経営・農作業科

部門名 農業土木－農業土木－その他

担当者 池田健一

## I 新技術の解説

### 1 要旨

福島県内の多面的機能支払交付金活動組織や農業法人について、農地保全に関する活動内容などを調査し、いくつかの特徴を明らかにした。

- (1) 2018年度の県内の多面的機能支払交付金活動組織の農業地域類型でもっとも多いのは、中間農業地域であった（図1）。
- (2) 多面的機能支払交付金活動組織のうち、中間・山間農業地域は、都市的・平地農業地域に比べ、管理している面積あたりの水路や農道の延長が長い（図2）。
- (3) 多面的機能支払交付金活動組織における農地保全活動のうち、もっとも活動割合が高い作業は「草刈り作業」である。また、E組織は地区内に大規模なため池があり、施設管理作業に時間を要している（図3）。
- (4) 聞き取り調査の結果では、「草刈り作業」や「土砂上げ作業」で労働力不足を感じているという意見などが見られた（表1）。

### 2 期待される効果

- (1) 多面的機能支払交付金事業を実施する際の留意事項として活用できる。

### 3 適用範囲

- (1) 多面的機能支払交付金事業関係者

### 4 普及上の留意点

- (1) 多面的機能支払交付金活動組織の活動内容は、2018年度のものである。
- (2) 活動割合調査組織は、中通り、浜通り、会津地域から2組織ずつ、計6組織抽出した。

## II 具体的データ等

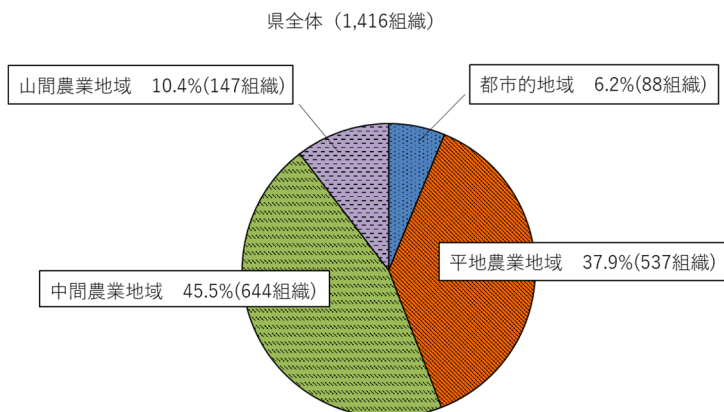


図1 農業地域類型の割合

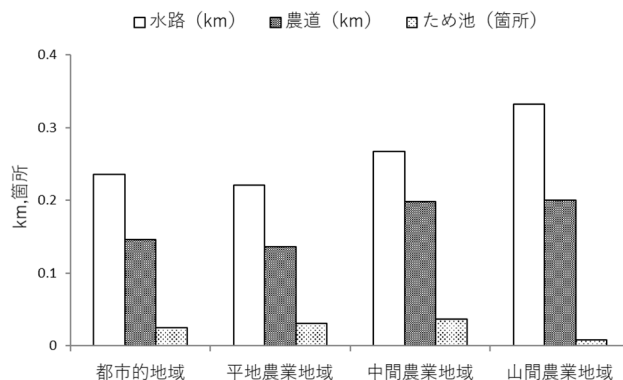


図2 管理面積1haあたりの保全対象施設

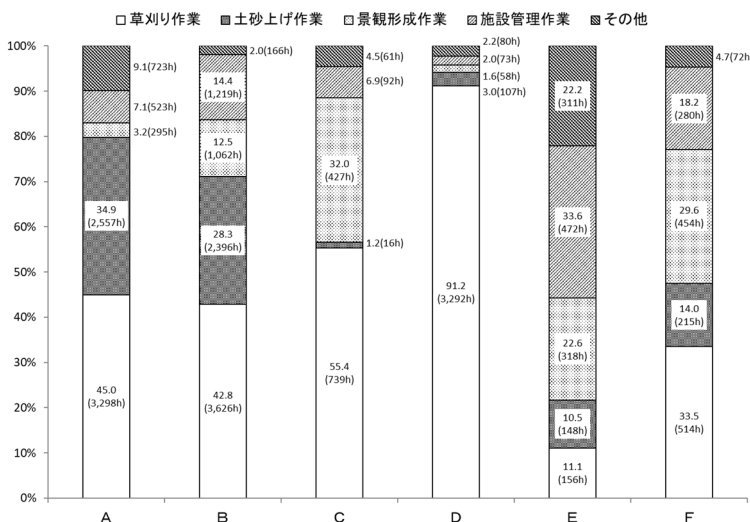


図3 各組織ごとの活動割合

表1 農地保全に関する聞き取り調査

調査組織	聞き取り調査結果
多面的機能支 払交付金活動 組織 (郡山市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・草刈りは年5回（5月、6月、7月上・下旬、9月）</li> <li>・土砂上げは年1回（4月）</li> <li>・高齢化により離農し、人に貸す人が増えている。</li> <li>・借りている人はあまり熱心に草刈りをやらず除草剤に頼るので畦畔が崩れる。</li> <li>・貸している人は保全活動に参加しないため、一人当たりの負担が増えている。</li> <li>・昨年大雨ではゲートが埋まった。</li> </ul>
農業法人 (広野町)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クローバーが水路に覆いかぶさり草刈りが困難となっている。</li> </ul>
農業法人 (南相馬市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根本的に労力が足りない。</li> <li>・電気柵周辺の草刈りが困難。</li> <li>・土砂上げの機械（重機）のリース代がかかる。</li> <li>・社員（労力）が取られる。</li> <li>・重機で作業しづらい場所に水路がある。（片方が山、片方が崖）</li> <li>・水路がイノシシに埋められる。</li> </ul>

## III その他

### 1 執筆者

池田健一

### 2 成果を得た課題名

(1) 研究期間 2019～2020 年度

(2) 研究課題名 中山間地における農地保全管理の省力化技術体系の確立 ア中山間地における農地保全管理の現状把握〔中山間ふるさと水と土基金事業〕

### 3 主な参考文献・資料

平成30年度福島県多面的機能支払交付金実績報告（様式1-10）